

## 新育種技術（NBT）の社会展開

### — 遺伝子組換え・ゲノム編集技術の産業利用に向けて —

組換え頻度、正確性の面から使い勝手の良い技術としてのゲノム編集技術が登場し、それを用いて育種した細胞を従来の遺伝子組換えの取り扱いルール（カルタヘナ法）の中でどう位置付けるかについて、論議された結果が公表されている。その後、応用分野ごとに異なる取り扱いルールについても各担当省庁で論議された。これらの結果、並び実際に組換え育種を行った事例について紹介するシンポジウムを企画した。

はじめに

穴澤 秀治（一般財団法人バイオインダストリー協会）

座長 野尻 秀昭（東京大学 生物生産工学研究センター・CRIIM）

12:45 ～ 13:05 バイオ技術の環境分野への応用や環境省の取組

相澤 寛史

（環境省地球環境局地球温暖化対策課 地球温暖化対策事業室  
室長）

13:05 ～ 13:25 ゲノム編集技術の整理と情報提供案

小出 純（長崎 太祐）

（経済産業省 商務・サービスグループ 生物化学産業課 生物多様性・生物兵器対策室 室長）

13:25 ～ 13:45 ゲノム編集応用作物等の開発状況と社会実装に向けて

高原 学

（農業・食品産業技術総合研究機構 企画戦略本部新技術対策室）

終わりに

穴澤 秀治